

DT50S/DT50Kのための ドラム音源モジュール設定マニュアル

JA

本書は、ドラムトリガー (DT50S/DT50K) をドラム音源モジュールに正しく接続してご利用いただくための、ドラム音源側の設定マニュアルです。ドラムトリガーの取り扱い方法やドラムトリガーをアコースティックドラムへ取り付ける方法については、DT50S/DT50K 製品付属の取扱説明書をご覧ください。

お使いのドラム音源モジュールを選択してください。

DTX502 2ページ

DTX700 12ページ

DTX900M/DTX900/DTXTREME III 17ページ

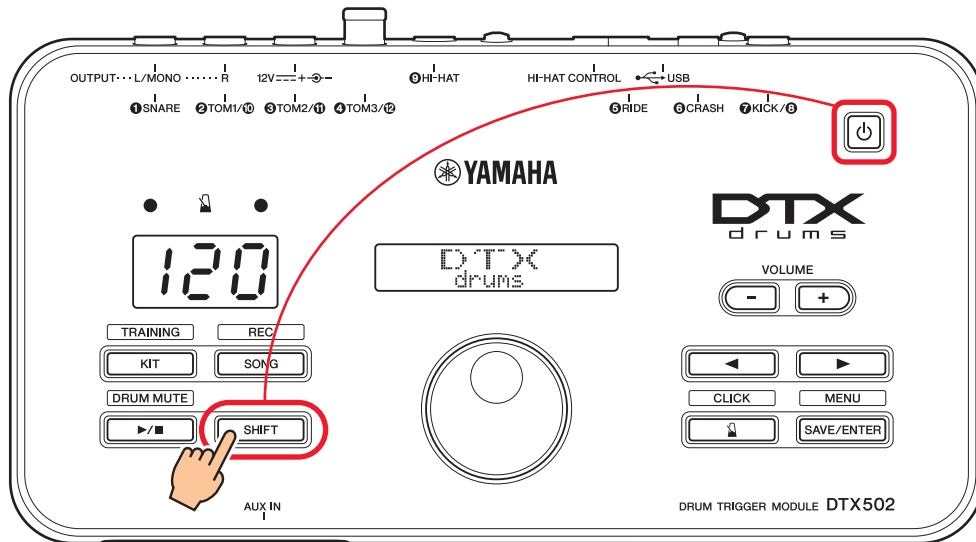
DTX-MULTI 12 24ページ

DTX502

本体のバージョンを確認する

本体のバージョンによっては、ファームウェアのアップデートが必要です。DT50S/DT50Kと接続をする前に、まずは本体のバージョンを確認してください。

1. 本体の[SHIFT]ボタンを押しながら、電源を入れます。



2. 画面でバージョンを確認します。

設定方法を選択する

バージョン確認後に、設定方法を選択します。

Ver1.30以上の場合

- かんたん設定(推奨)
- アドバンス設定

Ver1.30未満の場合

- アップデートして使用する(推奨)
- アップデートせずに使用する

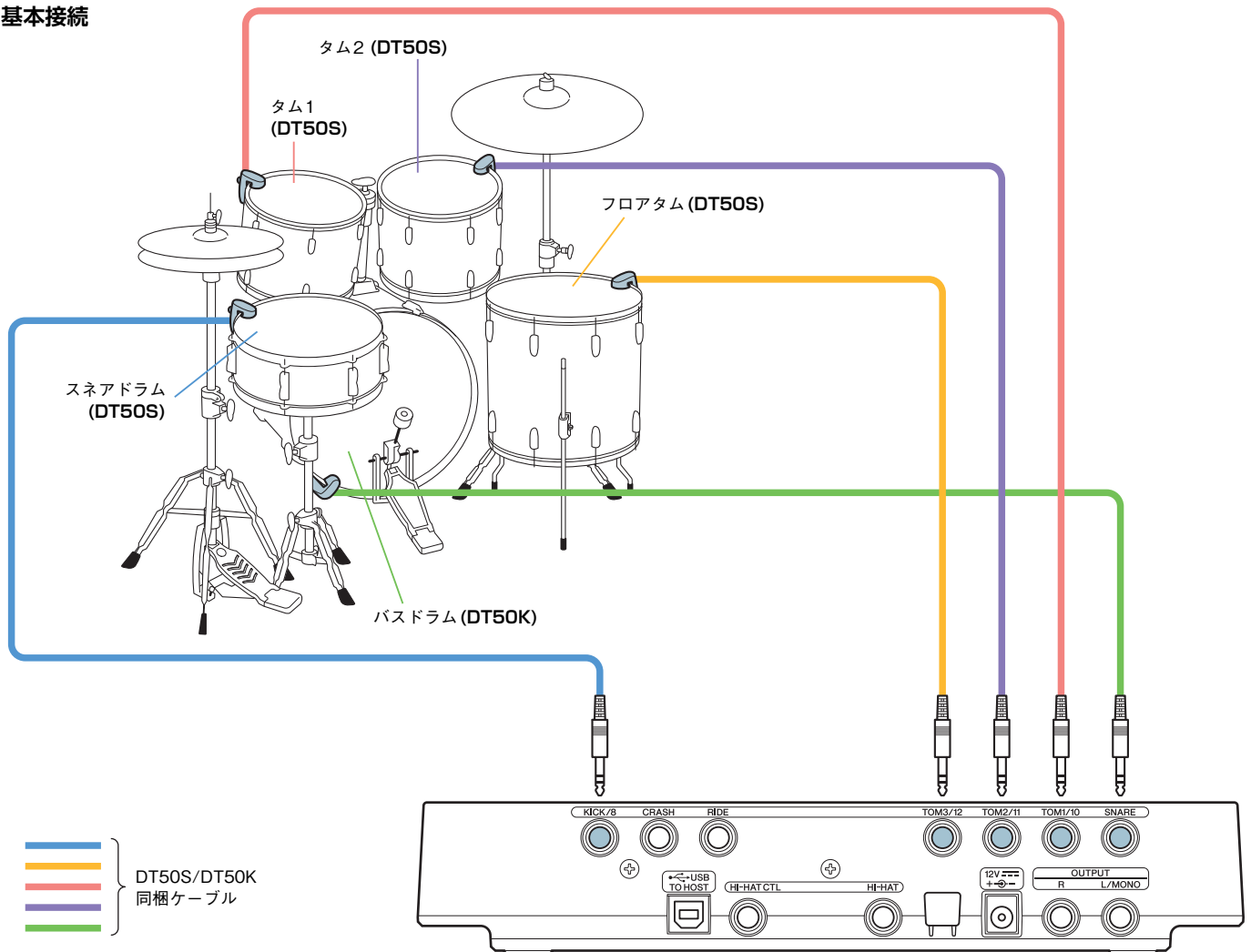
かんたん設定(推奨)

DT50S/DT50Kを基本接続して、トリガーセットアップを使って自動設定する方法を説明します。この方法では個別に音色を選択しなくても、プリセットのキットを選択するだけで、スネア、タム、キックの音を鳴らすことができます。

1. 本体と接続する

付属のステレオフィーンケーブルを使って、ドラムトリガーをDTX502の以下の端子に接続します。ドラムトリガーの取り扱いやドラムトリガーをアコースティックドラムへ取り付けける方法については、製品付属のDT50S/DT50K取扱説明書をご覧ください。

基本接続



NOTE

- ・ DTX502でモノラル×2インプット仕様の端子(L:トリガー、R:トリガー)は、**②TOM1/10**、**③TOM2/11**、**④TOM3/12**、および**⑦KICK/⑧端子**です。基本接続では、スネアドラムのヘッドおよびリムショットの2音に対応するため、スネアドラム(DT50S)を**⑦KICK/⑧端子**に、バスドラム(DT50K)を**①SNARE**端子に接続しています。接続と端子名が一致していない点にご注意ください。
- ・ タムのリムショットにも対応したい場合は、[アドバンス設定](#)をご覧ください。

アドバンス設定

トリガーセットアップを使わずに、ドラムトリガーのパッドタイプと音色を個別に設定する方法です。タムにDT50Sを取り付けてヘッドおよびリムショットの2音に対応したい場合などは、こちらの方法で設定してください。

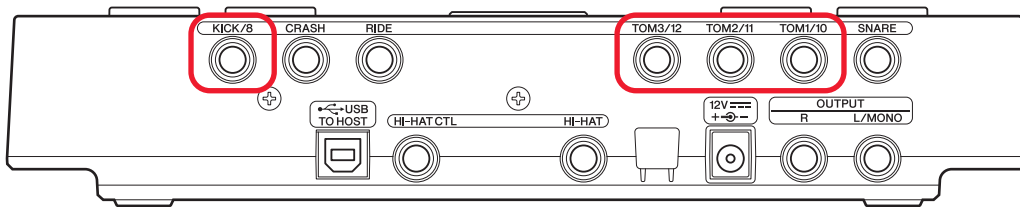
設定の自由度は高いですが、ご自分でパラメーターを調整する必要があります。

1. 本体と接続する

付属のステレオフィोनケーブルを使って、ドラムトリガーをDTX502の端子に接続してください。ドラムトリガーの取り扱い方法やドラムトリガーをアコースティックドラムへ取り付ける方法については、DT50S/DT50K製品付属の取扱説明書をご覧ください。

NOTE

DTX502でモノラル×2インプット仕様の端子(L: トリガー、R: トリガー)は、②TOM1/⑩、③TOM2/⑪、④TOM3/⑫、および⑦KICK/⑧端子です(下図参照)。



スネア・タム用のDT50Sを使用してヘッドおよびリムショットの2音を鳴らしたい場合は、上記のいずれかの端子に接続してください。

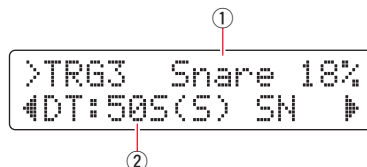
2. 本体を設定する

接続したDT50S/DT50Kのトリガー信号を利用して、ボイスを鳴らす設定を紹介します。

2-1. パッドタイプを選ぶ

トリガー入力端子に接続したDT50S/DT50Kのタイプを設定します。適切なパッドタイプを選ぶことで、パッドの機能を十分に活かすことができます。

1. [SHIFT]ボタンを押しながら[SAVE/ENTER]ボタンを押して、メニューモードに入ります。
2. データダイヤルを回して「Trigger」ページを選択し、さらに[◀]/[▶]ボタンで「TRG3」ページを選択します。



3. 接続したドラムヘッドを叩いてトリガー入力①を選択します。[SHIFT]ボタンを押しながら[◀]/[▶]ボタンを押しても選択できます。

4. データダイヤルを回してパッドタイプ(②)を設定します。設定値は以下を参照してください。

	アコースティックドラムへの 取り付け位置	本体接続端子	
		①SNARE	②TOM1/⑩、③TOM2/⑪、 ④TOM3/⑫、⑦KICK/⑧
DT50S	スネア	DT50S(S) SN	DT50S SN
	タム	DT50S(S) tomH	DT50S tomH
	フロアタム	DT50S(S) tomL	DT50S tomL
DT50K	バスドラム(*)	DT50K	DT50K

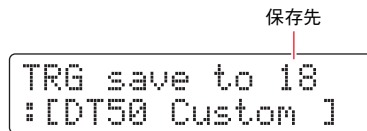
(S) : DT50Sのヘッド側の1音のみが鳴ります。

(*) : Yamaha Junior KitなどのバスドラムにDT50Sを取り付けた場合は、パッドタイプを「DT50K」に設定します。

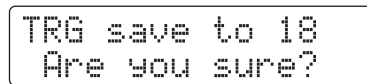
2-2. パッドタイプを保存する

設定したパッドタイプが消えないように、本体にユーザートリガーセットアップとして保存します。

1. [SAVE/ENTER]ボタンを押します。



2. データダイヤルを回して、保存先のユーザートリガーセットアップ番号(18~33)を選択します。
3. セットアップ名を変更します。[◀]/[▶]ボタンを押して変更したい文字を選択し、データダイヤルを回して文字を変更します。
4. [SAVE/ENTER]ボタンを押します。保存をやめるときは、[✖]を押します。

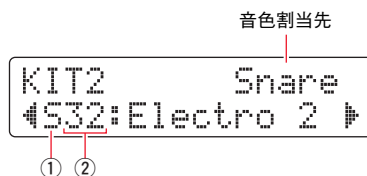


5. もう一度[SAVE/ENTER]ボタンを押して、保存を実行します。

2-3. ボイス(音色)を選ぶ

入力端子ごとに、鳴らしたいボイスを選択します。

1. [KIT]ボタンを押して、キットモードに入ります。
2. [◀]/[▶]ボタンを何度か押して、「KIT2」ページを選択します。
3. 音色を変更したいインストを、ヘッドまたはリムを叩いて選びます。[SHIFT]ボタンを押しながら[◀]/[▶]ボタンを押しても選択できます。



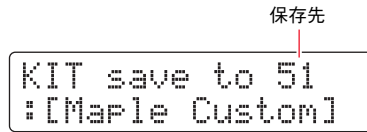
これにより音色割当先が切り替わります。

4. ①音色のカテゴリー/②音色番号を[◀]/[▶]ボタンで選択し、データダイヤルを回して音色を変更します。

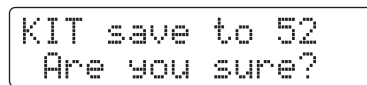
2-4. ボイス(音色)を保存する

設定したボイスが消えないように、本体にユーザーキットとして保存します。

1. [SAVE/ENTER]ボタンを押します。



2. データダイヤルを回して保存先のユーザーキット番号(51~100)を指定します。
3. ドラムキット名を変更します。[◀]/[▶]ボタンを押して変更したい文字を選択し、データダイヤルを回して文字を変更します。
4. [SAVE/ENTER]ボタンを押します。保存をやめるときは、[🗑️]を押します。



5. もう一度[SAVE/ENTER]ボタンを押して、保存を実行します。

2-5. その他のトリガーパラメーターを設定する

以下の推奨設定値を元に、お使いの環境に合わせて調整してください。ゲイン・ミニマムレベルなどの、その他のトリガー入力パラメーターについては、DTX502取扱説明書の「メニューモード - トリガー設定」を参照してください。

推奨設定値(通常のドラム)

			ベロシティーカーブ	ゲイン	ミニマムレベル(%)	ミニマムベロシティー	リジェクトタイム(ms)	ウェイトタイム(ms)	ノイズフィルター
DT50S	スネア	(ヘッド)	norm	65	30	1	20	3	6
		(リム)	norm	85	25	1	20	3	6
	タム	(ヘッド)	norm	40	35	1	51	3	7
		(リム)	norm	85	25	1	26	3	7
	フロアタム	(ヘッド)	norm	20	35	1	51	3	8
		(リム)	norm	85	25	1	26	3	7
DT50K	バスドラム	—	norm	27	35	1	20	5	8

推奨設定値(メッシュヘッド対応)

			ベロシティーカーブ	ゲイン	ミニマムレベル(%)	ミニマムベロシティー	リジェクトタイム(ms)	ウェイトタイム(ms)	ノイズフィルター
DT50S	スネア		norm	85	0	1	26	3	6
	タム		norm	75	0	1	26	3	6
	フロアタム		norm	85	0	1	26	3	6
DT50K	バスドラム		norm	85	0	1	20	5	7

以上でアドバンス設定は完了です。
ドラムトリガーを使って、新しいドラムの世界をお楽しみください。

さらに快適に使用するヒントをみる → **TIPS!**

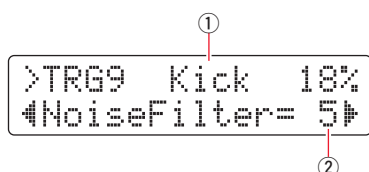
TIPS!

ドラムトリガーをより快適に使用するTipsを紹介します。

■ ノイズフィルターを調整する

パッドを叩いたときに送信されるトリガー信号に、なんらかの理由でノイズが含まれていたり、トリガー信号の乱れが原因で誤発音が発生する場合は、以下の手順で調整します。

1. [SHIFT]ボタンを押しながら[SAVE/ENTER]ボタンを押して、メニューモードに入ります。
2. データダイヤルを回して「Trigger」ページを選択し、さらに[◀]/[▶]ボタンで「TRG9」ノイズフィルター調整ページを選択します。



3. 接続したドラムヘッドを叩いて①トリガー入力を選び、ダイヤルを回して②ノイズフィルターを設定します。

HINT

この値を大きくすることでノイズや誤発音を抑えます。値を大きくするほど、速い連打に対して発音しない場合があります。実際の演奏に支障をきたさないように設定してください。

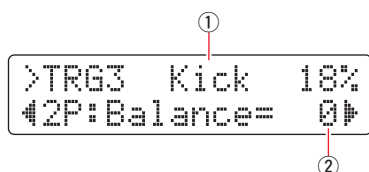
4. 設定が消えないように、本体にユーザートリガーセットアップとして保存します。保存方法は本書の「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」を参照してください。

■ ヘッドとリムのバランス(鳴りやすさ)を調整する

DT50Sを取り付けたスネアなどのヘッドとリム間のバランス(鳴りやすさ)を調整します。

本設定は、パッドタイプでDT50S SN/DT50S tomH/DT50S tomLを選択した場合のみ有効になります。

1. [SHIFT]ボタンを押しながら[SAVE/ENTER]ボタンを押して、メニューモードに入ります。
2. データダイヤルを回して「Trigger」ページを選択し、さらに[◀]/[▶]ボタンで「TRG3」バランス調整ページを選択します。



3. 接続したドラムヘッドを叩いて①トリガー入力を選び、ダイヤルを回して②バランスを設定します。

HINT

リムを叩いてヘッドが鳴る場合はBalanceの値を大きくする(R側)ことでリムが鳴りやすくなります。同様にヘッドを叩いてリムが鳴る場合はBalanceの値を小さくする(H側)ことでヘッドが鳴りやすくなります。ちょうどよい値に設定してください。

4. 設定が消えないように、本体にユーザートリガーセットアップとして保存します。保存方法は本書の「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」を参照してください。

アップデートして使用する (推奨)

アップデート方法には、Windowsアプリを使用する方法とiOSアプリを使用する方法の2通りがあります。Windowsアプリ (DTX502 updater) の場合は、以下のウェブサイトモデル名「DTX502 updater」を検索し、ファームウェアアップデーターのページにあるアップデート手順にしたがってアップデートを完了してください。

ヤマハダウンロード <http://download.yamaha.com/jp>



iOSアプリ (DTX502 Touch) からのアップデート

注意

- アップデート中はUSBケーブルを [USB TO HOST] 端子からはずしたり、本体の電源を切らないでください。本体の故障の原因につながります。
- iOS端末とDTX502の接続には、カメラコネクタが必要です。
- DTX502 TouchのバージョンがVer2.*.*以前の場合は、ファームウェアアップデートの前に、DTX502 Touch自体のアップデートを実行してください。

【DTX502 Touch版 バージョン: 2.*.*】

1. iPhone/iPad接続マニュアルをダウンロードします。
2. 接続マニュアルを参照して、DTX502 Touchがインストールされた端末と、DTX502を接続します。
3. DTX502 Touchを起動します。自動的にファームウェアバージョンのチェックが行なわれ、アップデートを促すダイアログが表示されます。これ以降は、表示されたアップデート手順に従ってください。

補足：ヤマハが提供しているDTX対応アプリケーションについては「電子ドラム スマートデバイスアプリケーションページ (<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/drums/apps/>)」でご確認ください。

設定方法の選択へお戻りください → [設定方法を選択する](#)

アップデートせずに使用する

DTX502がVer1.30未満の場合でもドラムトリガーを使用することはできますが、個別にパラメーターを設定する必要があります。かんたんに設定したい場合は、本体のアップデートをおすすめします。
DTX502をアップデートせずにドラムトリガーを使用する方法は、以下の通りです。

1. 本体と接続する

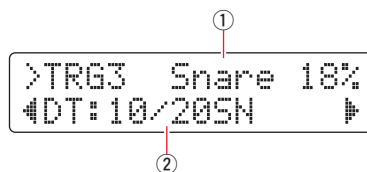
付属のステレオフィーンケーブルを使って、ドラムトリガーをDTX502の端子に接続します。ドラムトリガーの取り扱い方法やドラムトリガーをアコースティックドラムへ取り付けの方法については、DT50S/DT50K製品付属の取扱説明書をご覧ください。

2. 本体を設定する

2-1. パッドタイプを選ぶ

トリガー入力端子に接続したDT50S/DT50Kのタイプを設定します。

- [SHIFT]ボタンを押しながら[SAVE/ENTER]ボタンを押して、メニューモードに入ります。
- データダイヤルを回して「Trigger」ページを選択し、さらに[◀]/[▶]ボタンで「TRG3」ページを選択します。



- 接続したドラムヘッドを叩いてトリガー入力①を選択します。[SHIFT]ボタンを押しながら[◀]/[▶]ボタンを押しても選択できます。
- データダイヤルを回してパッドタイプ②を設定します。設定値は以下を参照してください。

	アコースティックドラムへの 取り付け位置	設定値	
		モノラル×2インプット仕様の端子 (L:トリガー、R:トリガー)に 接続した場合(*1)	モノラル端子に接続した場合
DT50S	スネア	2P: 2Piezo	DT: 10/20SN
	タム		DT: 10/20tomH
	フロアタム		DT: 10/20tomL
DT50K	バスドラム(*2)	DT: 10/20kick	

(*1) : DTX502でモノラル×2インプット仕様の端子(L:トリガー、R:トリガー)は、**②TOM1/⑩**、**③TOM2/⑪**、**④TOM3/⑫**、および**⑦KICK/⑨**端子です。スネア・タム用のDT50Sを使用してヘッドおよびリムショットの2音を鳴らしたい場合は、このいずれかの端子に接続してください。

(*2) : Yamaha Junior KitなどのバスドラムにDT50Sを取り付けた場合は、パッドタイプを「DT50K」に設定します。

2-2. その他のトリガーパラメーターを設定する

以下の推奨設定値を元に、お使いの環境に合わせて調整してください。ゲイン・ミニマムレベルなどの、その他のトリガー入力パラメーターについては、DTX502取扱説明書の「メニューモード - トリガー設定」を参照してください。

推奨設定値(通常のドラム)

			ベロシティー カーブ	ゲイン	ミニマム レベル(%)	ミニマム ベロシティー	リジェクト タイム(ms)	ウェイト タイム(ms)	ノイズ フィルター	2ピエゾ バランス
DT50S	スネア	(ヘッド)	norm	65	30	1	20	3	6	R40
		(リム)	norm	85	25	1	20	3	6	
	タム	(ヘッド)	norm	40	35	1	51	3	7	0
		(リム)	norm	85	25	1	26	3	7	
	フロアタム	(ヘッド)	norm	20	35	1	51	3	8	0
		(リム)	norm	85	25	1	26	3	7	
DT50K	バスドラム	-	norm	27	35	1	20	5	8	-

推奨設定値(メッシュヘッド対応)

			ベロシティー カーブ	ゲイン	ミニマム レベル(%)	ミニマム ベロシティー	リジェクト タイム(ms)	ウェイト タイム(ms)	ノイズ フィルター	2ピエゾ バランス
DT50S	スネア	(ヘッド)	norm	85	0	1	20	3	6	R40
		(リム)	norm	85	25	1	20	3	6	
	タム	(ヘッド)	norm	75	0	1	26	3	6	0
		(リム)	norm	85	25	1	26	3	7	
	フロアタム	(ヘッド)	norm	85	0	1	26	3	6	0
		(リム)	norm	85	25	1	26	3	7	
DT50K	バスドラム	-	norm	85	0	1	20	5	7	-

2-3. 設定を保存する

設定が消えないように、本体にユーザートリガーセットアップとして保存します。保存方法は、かんたん設定の「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」を参照してください。

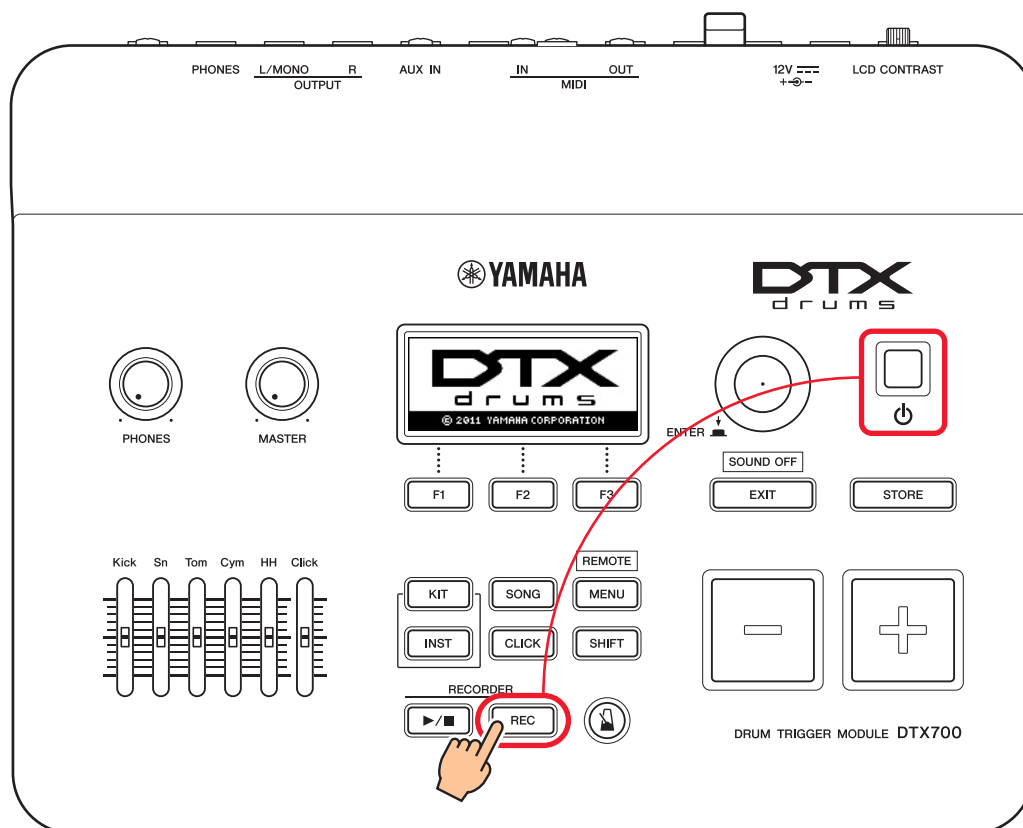
以上で設定は完了です。

ドラムトリガーを使って、新しいドラムの世界をお楽しみください。

本体のバージョンを確認する

本体のバージョンによっては、ファームウェアのアップデートが必要です。DT50S/DT50Kと接続をする前に、まずは本体のバージョンを確認してください。

1. 本体の[REC]ボタンを押しながら、電源を入れます。



2. 画面でバージョンを確認します。“Firm Ver : *.*” と表示されている部分がバージョンです。
Ver1.03以前の場合は、以下のウェブサイトでもデル名「DTX700」を検索し、ファームウェアアップデーターのページにあるアップデート手順にしたがってアップデートを完了してください。

ヤマハダウンロード <http://download.yamaha.com/jp>

Ver1.10になっていることを確認して、[設定方法](#)に進みます。

設定方法

1. 本体と接続する

付属のステレオフォンケーブルを使って、ドラムトリガーをDTX700の端子に接続してください。ドラムトリガーの取り扱い方法やドラムトリガーをアコースティックドラムへ取り付けの方法については、DT50S/DT50K製品付属の取扱説明書をご覧ください。

NOTE

- ・ DTX700でモノラル×2インプット仕様の端子(L：トリガー、R：トリガー)は、**⑨KICK/⑩端子**のみです。スネア・タム用のDT50Sを使用してヘッドおよびリムショットの2音を鳴らしたい場合は、この端子に接続してください。
- ・ 複数のDT50S/DT50Kを接続することができます。接続例については、**TIPS!**をご覧ください。

2. 本体を設定する

接続したDT50S/DT50Kのトリガー信号を利用して、ボイスを鳴らす設定を紹介します。

2-1. パッドタイプを選ぶ

トリガー入力端子に接続したDT50S/DT50Kのタイプを設定します。適切なパッドタイプを選ぶことで、パッドの機能を十分に活かすことができます。

1. [MENU] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ツマミを操作して、「TRIGGER」 — 「PAD」 — 「PAD TYPE」 画面に進みます。



HINT

ツマミ操作について

ツマミは押しボタン一体型です。ツマミを回して画面を選択し、ツマミを押して確定します。

3. [F1] ボタンで、本体に接続した端子名を設定します。
4. パッドタイプを設定します。設定値は以下を参照してください。

	アコースティックドラムへの 取り付け位置	本体接続端子	
		①SNARE～③HI-HAT、①	⑨KICK/⑩
DT50S	スネア	DT50S(S) Snare	DT50S Snare
	タム	DT50S(S) HiTom	DT50S HiTom
	フロアタム	DT50S(S) LoTom	DT50S LoTom
DT50K	バスドラム(*)	DT50K	DT50K

(S) : DT50Sのヘッド側の1音のみが鳴ります。

(*) : Yamaha Junior KitなどのバスドラムにDT50Sを取り付けた場合は、パッドタイプを「DT50K」に設定します。

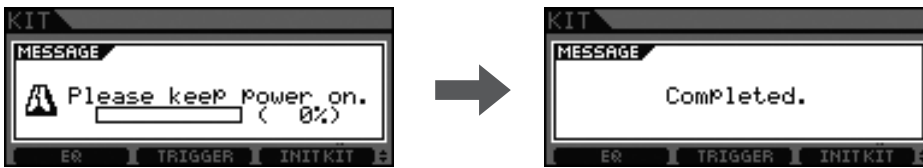
2-2. パッドタイプを保存する

設定したパッドタイプが消えないように、本体に設定を保存します。

1. [STORE]ボタンを押します。
保存をしないで直前の画面に戻る場合は、[EXIT]ボタンを押します。



2. [ENTER]ボタンを押して、ストアを実行します。



注記

“Please keep power on.”表示中は、絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失なわれたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。

2-3. ボイス(音色)を選ぶ

入力端子ごと(インスタ)に、鳴らしたいボイスを選択します。

1. [INST]ボタンを押します。
2. 音色を変更したいインスタを、ヘッドまたはリムを叩いて選びます。
これによりトリガー入力端子名が切り替わります。



NOTE

DT50Sを⑨KICK/⑩端子に取り付けた場合、ヘッド側を叩くと「Kick」、リム側を叩くと「Pad10」と表示されます。

3. 増設したパッドから鳴らしたいボイスを選びます。

NOTE

リムの音色を割り当てたい場合は、メニュー内の「KIT」→「VOICE」画面で設定してください。

2-4. ボイス(音色)を保存する

設定したボイスが消えないように、本体に設定を保存します。[「2-2. パッドタイプを保存する」](#)の手順をくりかえしてください。

以上で設定は完了です。

ドラムトリガーを使って、新しいドラムの世界をお楽しみください。

TIPS!

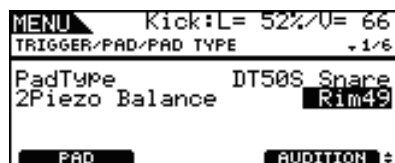
ドラムトリガーをより快適に使用するTipsを紹介します。

■ ヘッドとリムのバランス(鳴りやすさ)を調整する

DT50Sを取り付けたスネアなどのヘッドとリム間のバランス(鳴りやすさ)を調整します。

本設定は、パッドタイプでDT50S Snare/DT50S HiTom/DT50SLoTomを選択した場合のみ有効になります。

1. [MENU] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ツマミを操作して、「TRIGGER」 — 「PAD」 — 「PAD TYPE」 画面に進みます。



3. 「Balance」 で設定します。

HINT

リムを叩いてヘッドが鳴る場合はBalanceの値を大きくする(R側)ことでリムが鳴りやすくなります。同様にヘッドを叩いてリムが鳴る場合はBalanceの値を小さくする(H側)ことでヘッドが鳴りやすくなります。ちょうどよい値に設定してください。

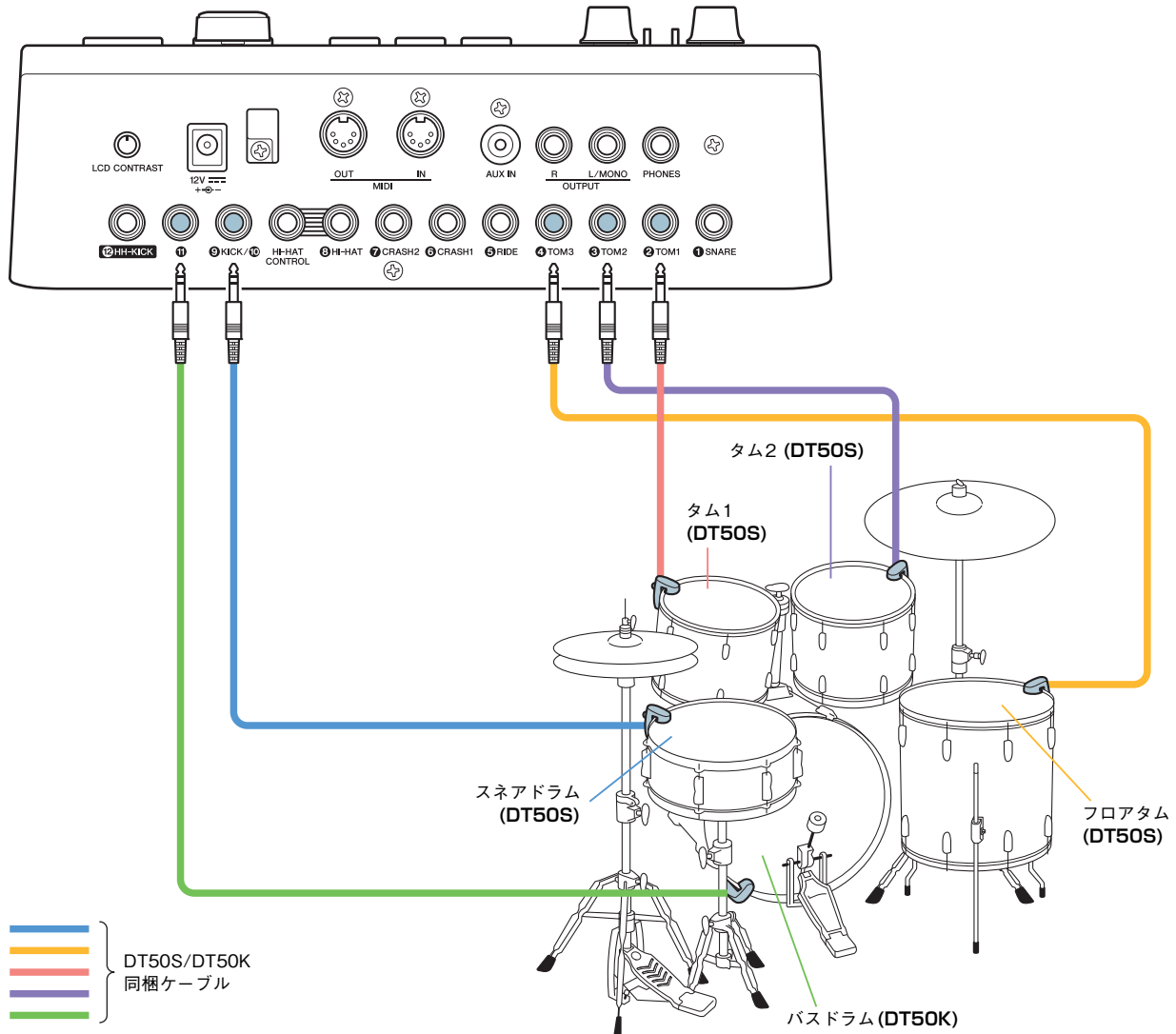
NOTE

トリガー信号にノイズが含まれていたり、誤発音が発生したりする場合は、ノイズフィルターを調整してください。詳しくは、本体のリファレンスマニュアル「NoiseFltrTbl — ノイズフィルター」を参照してください。

■ 複数のDT50S/DT50Kを接続する

例として、トリガー入力端子「⑨KICK/⑩、②TOM1、③TOM2、④TOM3、⑪」の5端子に、DT50S/DT50Kを5台(DT50S×4、DT50K×1)接続する方法を紹介します。

トリガーを増設することで、ボイス・ウェーブを鳴らす、ソングを再生する、パッドに機能を割り当てて操作するなど、演奏の幅が更に広がります。



上記の接続を使って本体を設定する場合、設定値は以下を参照してください。設定の手順については、「[設定方法](#)」を参照してください。

	アコースティックドラムへの取り付け位置		パッドタイプ選択時の本体設定		ボイス(音色)選択時の本体設定	
	本体接続端子	端子名	パッドタイプ	端子名	ボイス(音色)*	
DT50S	スネア	ヘッド側	Kick	DT50S Snare	Kick	Sn1: 013 Bright Oak
		リム側	Pad10		Pad10	Sn1: 014 BrOak OpRm
	タム1	②TOM1	Tom1	DT50S(S) HiTom	Tom1	Tom1: 005 Oak H
	タム2	③TOM2	Tom2	DT50S(S) HiTom	Tom2	Tom1: 006 Oak M
DT50K	フロアタム	④TOM3	Tom3	DT50S(S) LoTom	Tom3	Tom1: 007 Oak L
	バスドラム	⑪	Pad11	DT50K	Pad11	Kick: 009 BriteOak22

*ボイス(音色)の設定例として掲載しています。お好みに合わせて変更してください。また、リムの音色を割り当てたい場合は、メニュー内の「KIT」→「VOICE」画面で設定してください。

DTX900

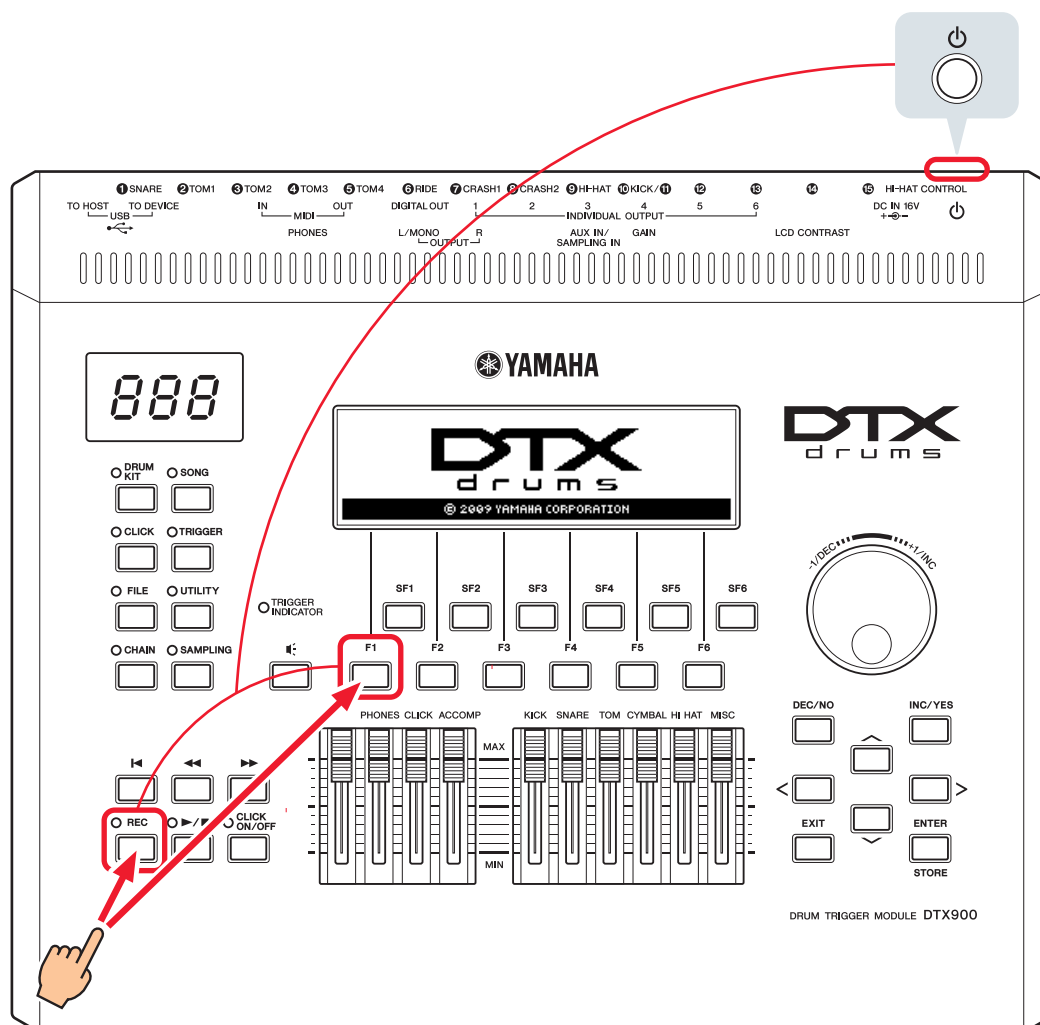
本説明書では、特別な説明のない限りDTX900M/DTX900/DTXTREME Ⅲの総称として「DTX900」と表記しています。

お使いの本体に合わせて読みかえてください。

本体のバージョンを確認する

本体のバージョンによっては、ファームウェアのアップデートが必要です。DT50S/DT50Kと接続をする前に、まずは本体のバージョンを確認してください。

1. 本体の[F1]ボタンと[REC]ボタンを同時に押しながら、電源を入れます。



2. 画面でバージョンを確認します。

Ver1.05以前の場合は、以下のウェブサイトでもデル名「DTX900」を検索し、ファームウェアアップデーターのページにあるアップデート手順にしたがってアップデートを完了してください。

ヤマハダウンロード <http://download.yamaha.com/jp>

Ver1.10になっていることを確認して、[設定方法](#)に進みます。

設定方法

1. 本体と接続する

付属のステレオフィーンケーブルを使って、ドラムトリガーをDTX900の端子に接続してください。ドラムトリガーの取り扱い方法やドラムトリガーをアコースティックドラムへ取り付けける方法については、DT50S/DT50K製品付属の取扱説明書をご覧ください。

NOTE

- ・ DTX900でモノラル×2インプット仕様の端子(L:トリガー、R:トリガー)は、**⑩KICK/⑪端子**のみです。スネア・タム用のDT50Sを使用してヘッドおよびリムショットの2音を鳴らしたい場合は、この端子に接続してください。
- ・ 複数のDT50S/DT50Kを接続することができます。接続例については、**TIPS!**をご覧ください。

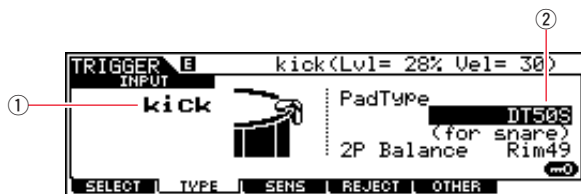
2. 本体を設定する

接続したDT50S/DT50Kのトリガー信号を利用して、ボイスを鳴らす設定を紹介します。

2-1. パッドタイプを選ぶ

トリガー入力端子に接続したDT50S/DT50Kのタイプを設定します。適切なパッドタイプを選ぶことで、パッドの機能を十分に活かすことができます。

1. [TRIGGER]ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [F2]ボタンを押して、パッドタイプの選択画面を表示します。



3. パッドタイプを設定します。

①でトリガー入力端子を選び、②でパッドタイプを設定します。設定値は以下を参照してください。

	アコースティックドラムへの 取り付け位置	本体の接続端子	
		①SNARE～⑨HI-HAT、⑫～⑮	⑩KICK/⑪
DT50S	スネア	DT50S(S) (for snare)	DT50S (for snare)
	タム	DT50S(S) (for HiTom)	DT50S (for HiTom)
	フロアタム	DT50S(S) (for LoTom)	DT50S (for LoTom)
DT50K	バスドラム(*)	DT50K	DT50K

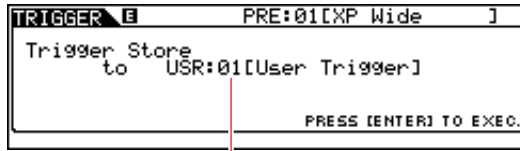
(S) : DT50Sのヘッド側の1音のみが鳴ります。

(*) : Yamaha Junior KitなどのバスドラムにDT50Sを取り付けた場合は、パッドタイプを「DT50K」に設定します。

2-2. パッドタイプを保存する

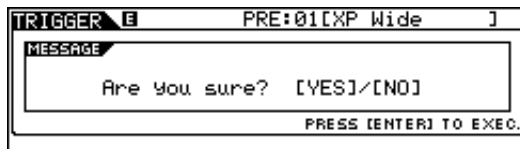
設定したパッドタイプが消えないように、本体にユーザートリガーセットアップとして保存します。

1. [TRIGGER]ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [ENTER/STORE]ボタンを押します。



ストア先のトリガーセットアップ番号

3. データダイヤルを回して、ストア先のトリガーセットアップ番号を選択します。
4. [ENTER/STORE]ボタンを押します。ストア実行の確認を求める画面が表示されます。ストアをやめるときは、[DEC/NO]ボタンを押します。



5. [INC/YES]ボタンを押して、ストア(保存)を実行します。

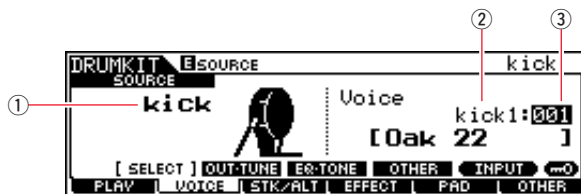
注記

“Please keep power on.”表示中は、絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失われたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。

2-3. 音色(ドラムボイス)を選ぶ

入力端子ごとに、鳴らしたいドラムボイスを選択します。

1. [DRUM KIT]ボタンを押して、ドラムキットモードに入ります。
2. [F2] VOICEボタン、[SF1] SELECTボタンを押して、SELECT(セレクト)画面を表示します。
3. [SF5]ボタンを押して、「SOURCE」に設定します。
4. 変更したいトリガー入力端子を、ヘッドまたはリムを叩いて選びます。画面上的カーソルを①の位置まで移動させ、[DEC/NO]/[INC/YES]ボタンを押しても選択できます。



NOTE

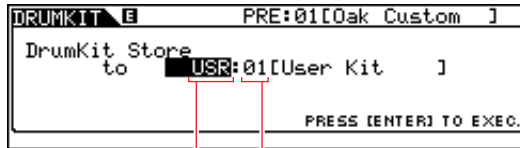
DT50Sを⑩KICK/⑪端子に取り付けた場合、ヘッド側を叩くと「Kick」、リム側を叩くと「Pad11」と表示されます。

5. カーソルを移動させ、[DEC/NO]/[INC/YES]ボタンを使って、お好みの②ボイスカテゴリーと③ボイス番号を選択します。

2-4. 音色(ドラムボイス)を保存する

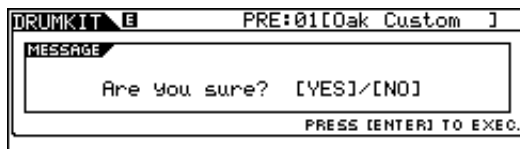
設定したドラムボイスが消えないように、本体にユーザーキットとして保存します。

1. [DRUM KIT]ボタンを押して、ドラムキットモードに入ります。
2. [ENTER/STORE]ボタンを押します。



ストア先のドラムキットバンク スタア先のドラムキット番号

3. データダイヤルを回して、ストア先のドラムキットバンクとドラムキット番号を選択します。
4. [ENTER/STORE]ボタンを押します。ストア実行の確認を求める画面が表示されます。ストアをやめるときは、[DEC/NO]ボタンを押します。



5. [INC/YES]ボタンを押して、ストア(保存)を実行します。

注記

“Please keep power on.”表示中は、絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失なわれたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。

以上で設定は完了です。
ドラムトリガーを使って、新しいドラムの世界をお楽しみください。

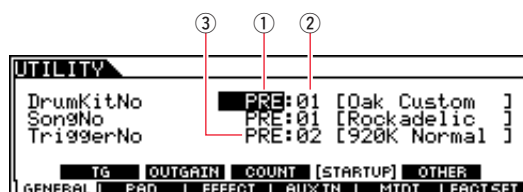
TIPS!

ドラムトリガーをより快適に使用するTipsを紹介します。

■ スタートアップを設定する

電源を入れたときに、保存したパッドタイプや音色設定が選択されるように設定します。

1. [UTILITY]ボタンを押して、ユーティリティモードに入ります。
2. [F1] GENERAL → [SF4] STARTUPボタンを押して、電源オン時の初期値の設定をする画面を表示します。



3. ①、②で「[2-4. 音色\(ドラムボイス\)を保存する](#)」で保存したユーザーキットを選択します。
4. ③で「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」で保存したユーザートリガーセットアップを選択します。
5. [ENTER/STORE]ボタンを押して、ストアを実行します。



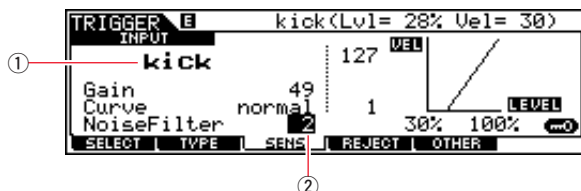
注記

“Utility stored.”表示中は、絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失われたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。

■ ノイズフィルターを調整する

パッドを叩いたときに送信されるトリガー信号に、なんらかの理由でノイズが含まれていたり、トリガー信号の乱れが原因で誤発音が発生する場合は、以下の手順で調整します。

1. [TRIGGER] ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [F3] ボタンを押してトリガーセンシビリティ設定画面を表示します。



3. ①で本体に接続した端子名を選び、②でノイズフィルターを設定します。

HINT

この値を大きくすることでノイズや誤発音を抑えます。値を大きくするほど、速い連打に対して発音しない場合があります。実際の演奏に支障をきたさないように設定してください。

4. 設定が消えないように、本体にユーザートリガーとして保存します。保存方法は本書の「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」を参照してください。

■ ヘッドとリムのバランス(鳴りやすさ)を調整する

DT50Sを取り付けたスネアなどのヘッドとリム間のバランス(鳴りやすさ)を調整します。

本設定は、パッドタイプでDT50S (for snare)/DT50S (for HiTom)/DT50S (for LoTom)を選択した場合のみ有効になります。

1. [TRIGGER] ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [F2] ボタンを押してパッドタイプの選択画面を表示します。



3. ①で本体に接続した端子名を選び、②でバランスを設定します。

HINT

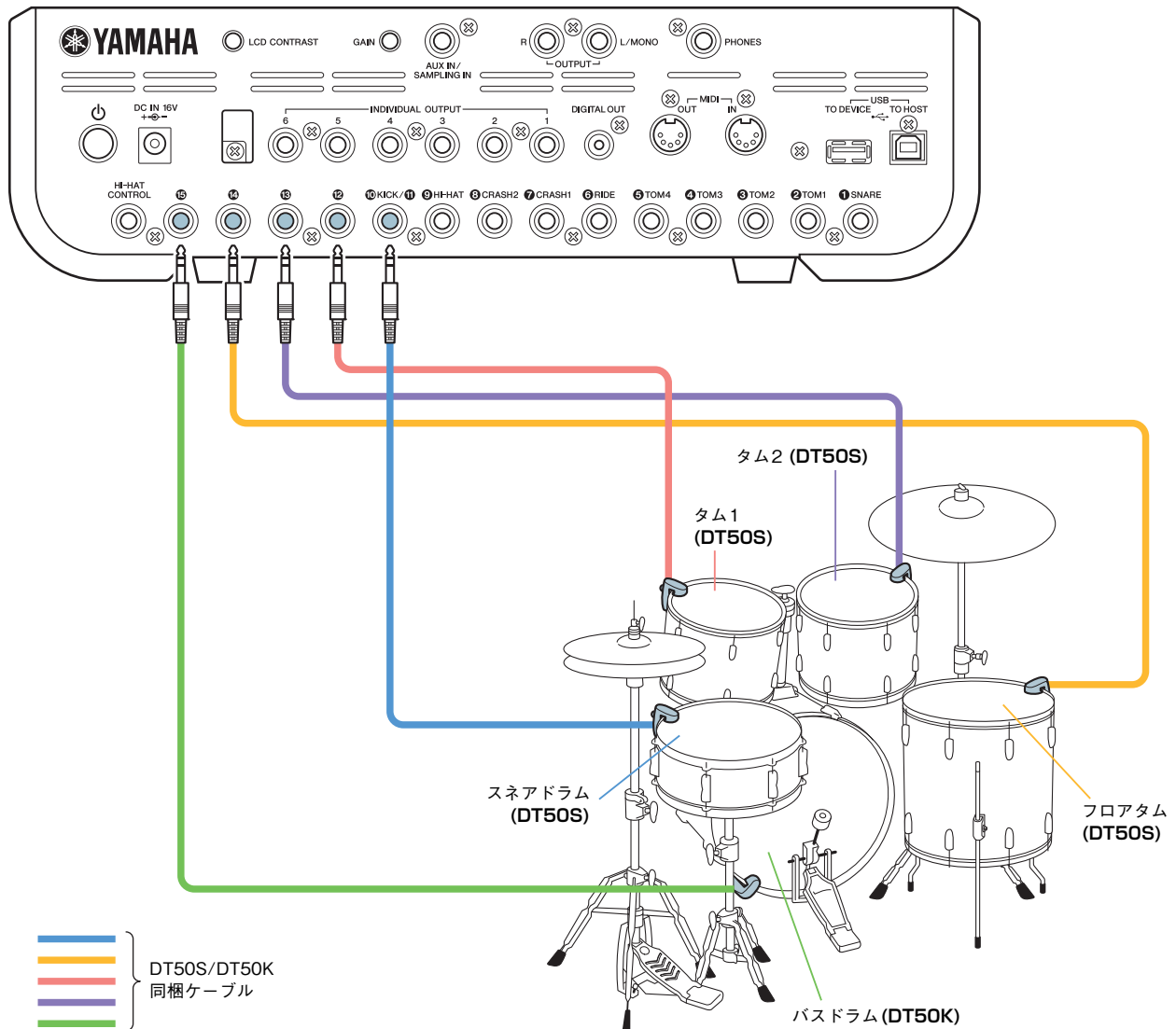
リムを叩いてヘッドが鳴る場合はBalanceの値を大きくする(R側)ことでリムが鳴りやすくなります。同様にヘッドを叩いてリムが鳴る場合はBalanceの値を小さくする(H側)ことでヘッドが鳴りやすくなります。ちょうどよい値に設定してください。

4. 設定が消えないように、本体にユーザートリガーとして保存します。保存方法は本書の「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」を参照してください。

■ 複数のDT50S/DT50Kを接続する

例として、トリガー入力端子「⑩KICK/⑪、⑫、⑬、⑭、⑮」の5端子に、DT50S/DT50Kを5台(DT50S×4、DT50K×1)接続する方法を紹介します。

トリガーを増設することで、ボイス・ウェーブを鳴らす、ソングを再生する、パッドに機能を割り当てて操作するなど、演奏の幅が更に広がります。



上記の接続を使って本体を設定する場合、設定値は以下を参照してください。設定の手順については、「[設定方法](#)」を参照してください。

	アコースティックドラムへの取り付け位置		本体接続端子	パッドタイプ選択時の本体設定		音色(ドラムボイス)選択時の本体設定	
	ヘッド側	リム側		端子名	パッドタイプ	端子名	音色(ドラムボイス)*
DT50S	スネア	ヘッド側	⑩KICK/⑪	kick	DT50S (for snare)	kick	sanre1: 001 OakCustom
		リム側		pad11		pad11	sanre1: 002 OakCusOpRm
	タム1	⑫	pad12	DT50S(S) (for HiTom)	pad12Hd	tom1: 001 Oak 10	
	タム2	⑬	pad13	DT50S(S) (for HiTom)	pad13Hd	tom1: 004 Oak 12	
DT50S	フロアタム	⑭	pad14	DT50S(S) (for LoTom)	pad14Hd	tom1: 007 Oak 14	
DT50K	バスドラム	⑮	pad15	DT50K	pad15Hd	kick1: 001 Oak 22	

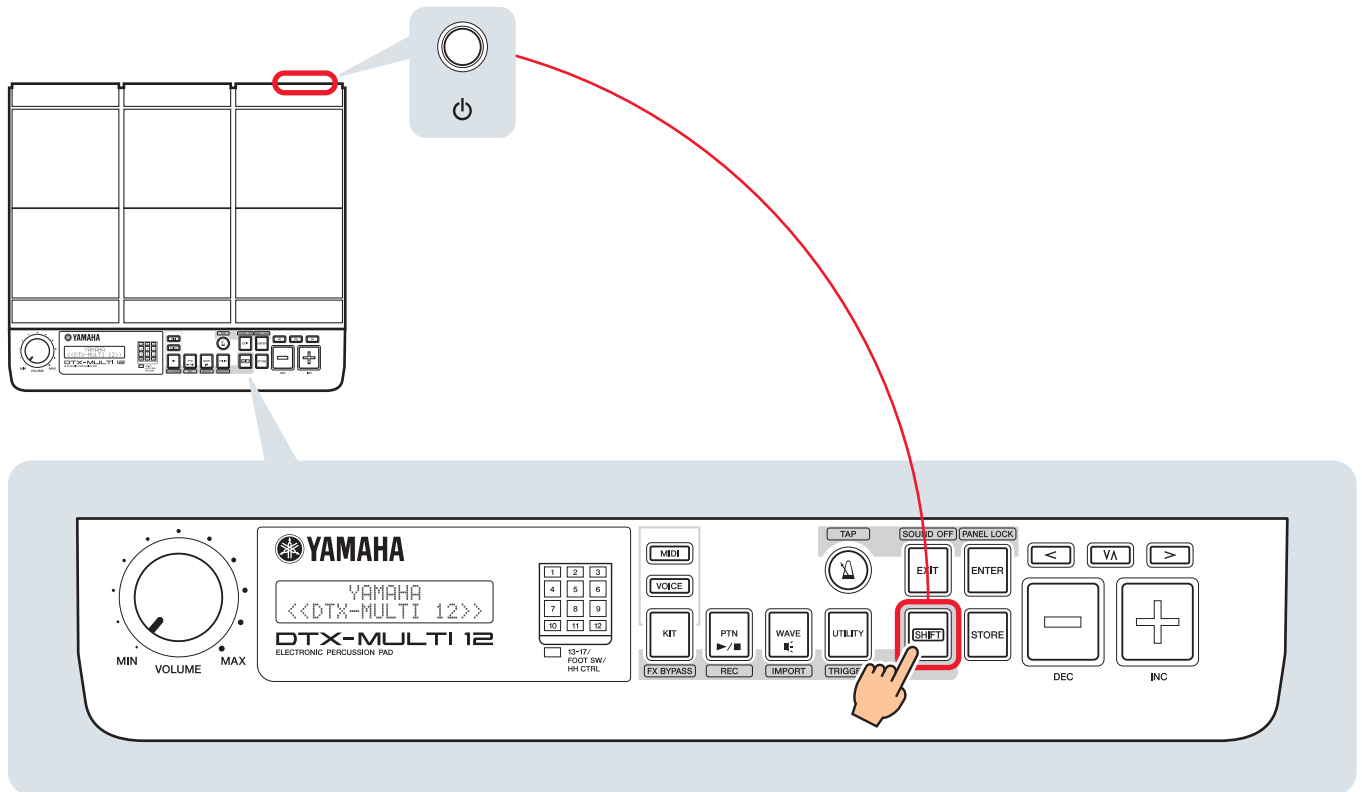
*音色(ドラムボイス)の設定例として掲載しています。お好みに合わせて変更してください。

DTX-MULTI 12

本体のバージョンを確認する

本体のバージョンによっては、ファームウェアのアップデートが必要です。DT50S/DT50Kと接続をする前に、まずは本体のバージョンを確認してください。

1. 本体の[SHIFT]ボタンを押しながら、電源を入れます。



2. 画面でバージョンを確認します。

Ver1.03以前の場合は、以下のウェブサイトモデル名「DTX-MULTI 12」を検索し、ファームウェアアップデーターのページにあるアップデート手順にしたがってアップデートを完了してください。

ヤマハダウンロード <http://download.yamaha.com/jp>

Ver1.10になっていることを確認して、[設定方法](#)に進みます。

設定方法

1. 本体と接続する

付属のステレオフォンケーブルを使って、ドラムトリガーをDTX-MULTI 12の端子に接続してください。ドラムトリガーの取り扱い方法やドラムトリガーをアコースティックドラムへ取り付ける方法については、DT50S/DT50K製品付属の取扱説明書をご覧ください。

NOTE

- ・ DTX-MULTI 12でモノラル×2インプット仕様の端子(L：トリガー、R：トリガー)は、**⑬/⑭端子**または**⑯/⑰端子**です。スネア・タム用のDT50Sを使用してヘッドおよびリムショットの2音を鳴らしたい場合は、いずれかの端子に接続してください。
- ・ 市販のY字ケーブルを使って、複数のDT50S/DT50Kを接続することができます。接続例については、**TIPS!**をご覧ください。

2. 本体を設定する

接続したDT50S/DT50Kのトリガー信号を利用して、ボイスを鳴らす設定を紹介します。

2-1. パッドタイプを選ぶ

トリガー入力端子に接続したDT50S/DT50Kのタイプを設定します。適切なパッドタイプを選ぶことで、パッドの機能を十分に活かすことができます。

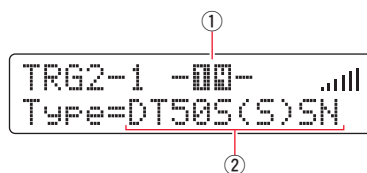
1. [SHIFT]ボタンを押しながら[UTILITY]ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [<]/[>]ボタンと[ENTER]ボタンを使って、「TRG2」→「TRG2-1」設定ページを表示します。

HINT

画面の切り替えについて

各モードはメニューと呼ばれる項目ごとの画面(TRG1、TRG2 …)に分かれています。メニュー画面の切り替えは、[<]/[>]ボタンで行ないます。また、メニュー画面はさらに数ページの設定ページ(TRG1-1、TRG1-2 …)で構成されています。メニュー画面を選んだあと、[ENTER]ボタンを押すことで設定ページの階層(下の階層)へ移動します。設定ページの切り替えは、[<]/[>]ボタンで行ないます。

3. パッドタイプを設定します。



[VA]ボタンで①接続端子名または②パッドタイプを選択して、[-/DEC]/[+/INC]ボタンで設定します。設定値は以下を参照してください。

	アコースティックドラムへの取り付け位置	本体の接続端子		
		⑬	⑭/⑮	⑯/⑰
DT50S	スネア	DT50S(S)SN	DT50S SN	
	タム	DT50S(S)HTm	DT50S HTm	
	フロアタム	DT50S(S)LTm	DT50S LTm	
DT50K	バスドラム(*)	DT50K	DT50K	

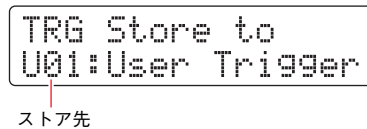
(S)：DT50Sのヘッド側の1音のみが鳴ります。

(*)：Yamaha Junior KitなどのバスドラムにDT50Sを取り付けた場合は、パッドタイプを「DT50K」に設定します。

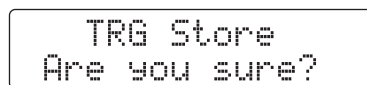
2-2. パッドタイプを保存する

設定したパッドタイプが消えないように、本体にユーザートリガーセットアップとして保存します。

1. [SHIFT]ボタンを押しながら[UTILITY]ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [STORE]ボタンを押します。
3. [-/DEC]/[+/INC]ボタンを押して、ストア先を選択します。



4. [ENTER]ボタンを押します。ストア実行の確認をを求める画面が表示されます。ストアをやめるときは、[EXIT]ボタンを押します。



5. [ENTER]ボタンを押して、ストア(保存)を実行します。

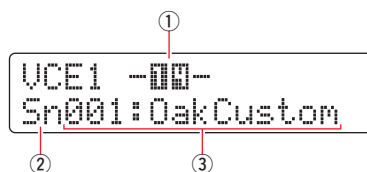
注記

“Please keep power on.”表示中は、絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失なわれたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。

2-3. ボイス(音色)を選ぶ

入力端子ごとに、鳴らしたいボイスを選択します。

1. [VOICE]ボタンを押して、ボイスモードに入ります。



2. 変更したいボイスを、ヘッドまたはリムを叩いて選びます。[VA]ボタンを押して画面上のカーソルを①の位置まで移動させ、[-/DEC]/[+/INC]ボタンを押しても選択できます。これにより①接続端子名が切り替わります。

NOTE

DT50Sを⑭/⑮端子に取り付けた場合、ヘッド側を叩くと「14」、リム側を叩くと「15」と表示されます。

3. カーソルを画面左下に移動させ、[-/DEC]/[+/INC]ボタンを使って、お好みの②ボイスカテゴリーと③ボイス番号を選択します。


2-4. ボイス(音色)を保存する

設定したボイスが消えないように、本体にユーザーキットとして保存します。

NOTE

ボイスデータはキットデータの一部なので、キットデータとして保存されます。詳しくは、DTX-MULTI 12取扱説明書「内部のしくみーメモリー構成」を参照してください。

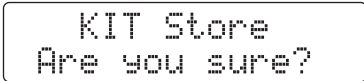
1. [VOICE] ボタンを押して、ボイスモードに入ります。
2. [STORE] ボタンを押します。
以下の画面が表示されるので、[-/DEC]/[+/INC] ボタンを押してストア先を選択します。



KIT Store to
U001:User Kit

↑
ストア先

3. [ENTER] ボタンを押します。ストア実行の確認を求める画面が表示されます。ストアをやめるときは、[EXIT] ボタンを押します。



KIT Store
Are you sure?

4. [ENTER] ボタンを押して、ストア(保存)を実行します。

注記

“Please keep power on.” 表示中は、絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失なわれたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。

以上で設定は完了です。
ドラムトリガーを使って、新しいドラムの世界をお楽しみください。

TIPS!

ドラムトリガーをより快適に使用するTipsを紹介します。

■ スタートアップを設定する

電源を入れたときに、保存したパッドタイプや音色設定が選択されるように設定します。

1. [UTILITY]ボタンを押して、ユーティリティモードに入ります。
2. [<]/[>]ボタンと[ENTER]ボタンを使って、「UTIL1(GENERAL)」→「UTIL1-3」スタートアップキット選択画面を表示します。

```
UTIL1-3<GENERAL>  
StartupKit=U001
```

3. [「2-4. ボイス\(音色\)を保存する」](#)で保存したユーザーキットを設定します。
4. 「UTIL1(GENERAL)」→「UTIL1-5」スタートアップトリガー番号選択画面を表示します。

```
UTIL1-5<GENERAL>  
StartupTrg=U01
```

5. [「2-2. パッドタイプを保存する」](#)で保存したユーザートリガーセットアップを設定します。
6. [STORE]ボタンを押します。

```
UTIL Store  
Are you sure?
```

7. [ENTER]ボタンを押して、ストア(保存)を実行します。

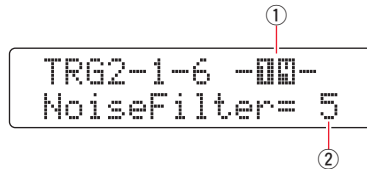
注記

“Please keep power on.”表示中は、絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失われたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。

■ ノイズフィルターを調整する

パッドを叩いたときに送信されるトリガー信号に、なんらかの理由でノイズが含まれていたり、トリガー信号の乱れが原因で誤発音が発生する場合は、以下の手順で調整します。

1. [SHIFT]ボタンを押しながら[UTILITY]ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [<]/[>]ボタンと[ENTER]ボタンを使って、「TRG2」→「TRG2-1」→「TRG2-1-6」ノイズフィルター調整画面を表示します。



3. 調整したいヘッドまたはリムを叩いて選択します。[VA]ボタンを押して画面上のカーソルを①の位置まで移動させ、[-/DEC]/[+/INC]ボタンを押しても選択できます。これにより①接続端子名が切り替わります。
4. ②でノイズフィルターを設定します。

HINT

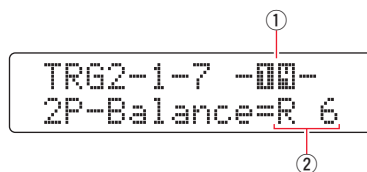
この値を大きくすることでノイズや誤発音を抑えます。値を大きくするほど、速い連打に対して発音しない場合があります。実際の演奏に支障をきたさないように設定してください。

5. 設定を保存します。保存方法は本書の「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」を参照してください。

■ ヘッドとリムのバランス(鳴りやすさ)を調整する

DT50Sを取り付けたスネアなどのヘッドとリム間のバランス(鳴りやすさ)を調整します。本設定は、パッドタイプでDT50S SN/DT50S HTm/DT50S LTmを選択した場合のみ有効になります。

1. [SHIFT]ボタンを押しながら[UTILITY]ボタンを押して、トリガーモードに入ります。
2. [<]/[>]ボタンと[ENTER]ボタンを使って、「TRG2」→「TRG2-1」→「TRG2-1-7」バランス調整画面を表示します。



3. 調整したいヘッドまたはリムを叩いて選択します。[VA]ボタンを押して画面上のカーソルを①の位置まで移動させ、[-/DEC]/[+/INC]ボタンを押しても選択できます。これにより①接続端子名が切り替わります。
4. ②でバランスを設定します。

HINT

リムを叩いてヘッドが鳴る場合はBalanceの値を大きくする(R側)ことでリムが鳴りやすくなります。同様にヘッドを叩いてリムが鳴る場合はBalanceの値を小さくする(H側)ことでヘッドが鳴りやすくなります。ちょうどよい値に設定してください。

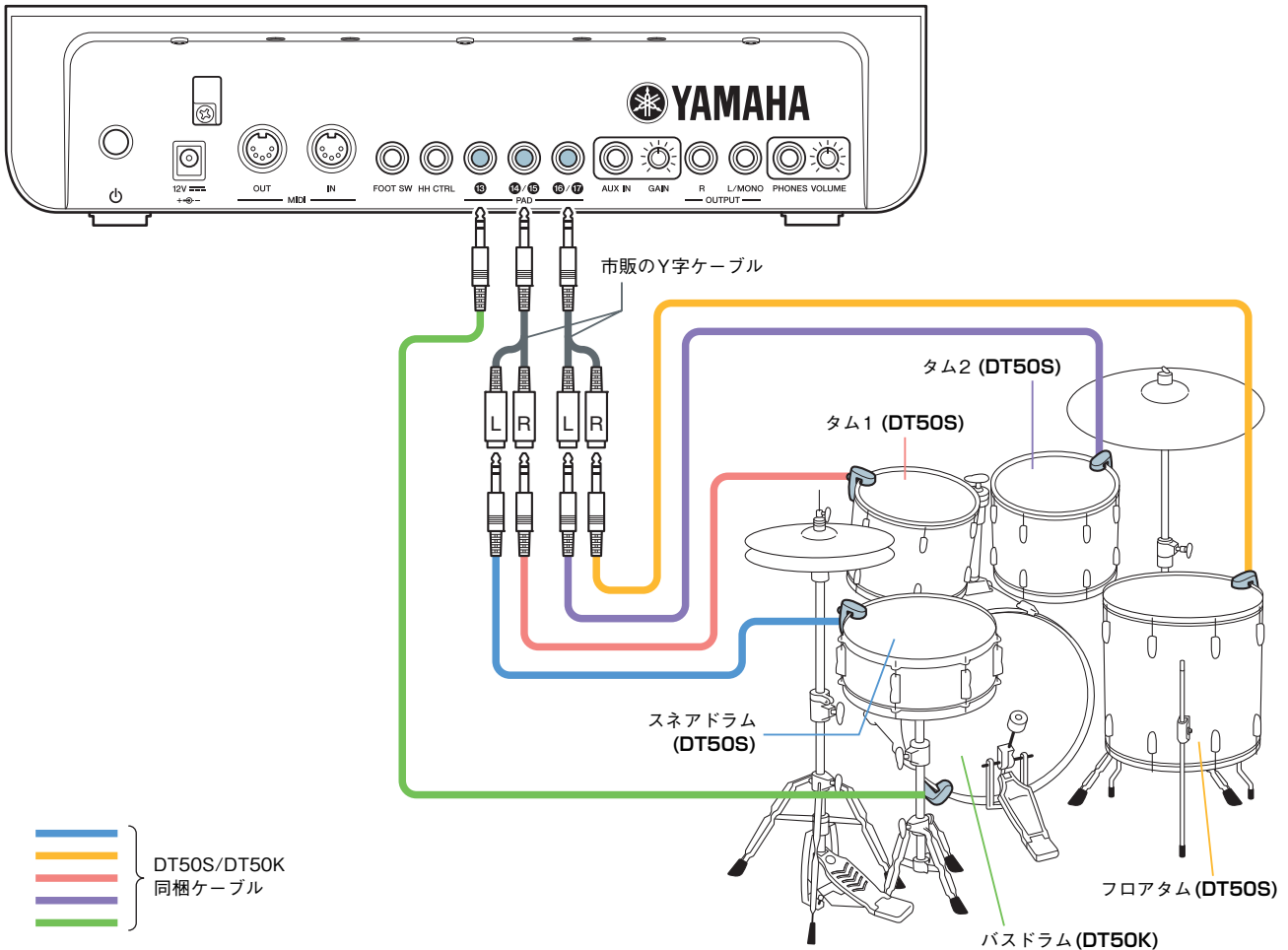
5. 設定を保存します。保存方法は本書の「[2-2. パッドタイプを保存する](#)」を参照してください。

■ 複数のDT50S/DT50Kを接続する

本体に接続可能な端子は**13**、**14/15**、および**16/17**の3端子ですが、市販のY字ケーブルを使用してDT50S/DT50Kを最大5台まで(基本はDT50S×4、DT50K×1)増設できます。

例として、DT50S/DT50Kを5台(DT50S×4、DT50K×1)接続する方法を紹介します。

トリガーを増設することで、ボイス・ウェーブを鳴らす、パターンを再生する、パッドに機能を割り当てて操作するなど、演奏の幅が更に広がります。



上記の接続を使って本体を設定する場合、設定値は以下を参照してください。設定の手順については、「[設定方法](#)」を参照してください。

	アコースティックドラムへの取り付け位置	本体接続端子	パッドタイプ選択時の本体設定		ボイス選択時の本体設定	
			端子名	パッドタイプ	端子名	ボイス*
DT50S	スネア	14/15	14	DT50S(S)SN	14	Sn001: OakCustom
	タム1	14/15	15	DT50S(S)HTm	15	Tm001: OakCtm H
	タム2	16/17	16	DT50S(S)HTm	16	Tm002: OakCtm M
	フロアタム	16/17	17	DT50S(S)LTm	17	Tm003: OakCtm L
DT50K	バスドラム	13	13	DT50K	13	Kk001: OakCustom

*音色(ボイス)の設定例として掲載しています。お好みに合わせて変更してください。